

# 世界の バスケットリー × バスケットリーの 世界

## 編んで着飾る男たち

岡田 恵美 民博人類基礎理論研究部

インドとミャンマーにまたがる地域に暮らすナガの人びとにとって、竹は生活必需品である。ナガの農村社会において、バスケットリーを編むのは男たちの仕事とされているが、彼らが竹や籐から作り出すのは籠だけではない。体に身につける装飾品にも、その技が活かされている。

インド北東部ナガランド州やミャンマー北西部ザガイン地方域ナガ自治区を中心に、インドとミャンマーの国境周辺には、「ナガ」とよばれるモンゴロイド系の人びとが暮らす。ナガは異なる言語をもつ少数民族の総称を指し、一九世紀末からの英国統治や一九四〇年代から半世紀以上も続いたインドからの独立運動のなかで、多様性の統一のものと形成された民族概念ともいえる。ナガの大半は標高一五〇〇メートル前後の密林山岳地帯に居住し、急斜面に何層も連なる棚田での稲作や焼畑農業を生業としている。

### No Bamboo, No Life

農村のナガの生活に欠かせないものが竹である。「竹の揺り籠で人生を始め、竹の棺で人生を終える」という諺もあり、竹林を有していれば飢えることはないといわれてきた。竹は住居の建築資材や棚田への水路、家具、籠、食器、笛や口琴といった

に男性が自ら編んだ背負い籠を相手の女性に贈る風習もあった。

そうしたバスケットリーに欠かせない素材は何といても竹であり、稔齢一年ほどの若竹が好まれる。またヤシ科の籐もナガにとって身近な素材である。ダオとよばれる刀で竹や籐を薄く削り、異なる幅の長さ一メートル程のヒゴを作る。背負い籠の場合は、ヒゴを格子状に組んで底面を整え、側面は竹製の型に沿うように、曲線を帯びた形状に編んでゆく。バスケットリーの第一の用途は貯蔵であり、竹で作られた高さ二メートルを超える米用の籠は、実用品であるだけでなく、富の象徴

楽器にも使われる万能な素材である。またナガにとって筍は日常的な食材で、数日発酵させたものを豚肉と一緒に煮込んだり、漬物にしたり、乾燥させて保存食としても重宝する。インド側のナガランド州では、二〇〇四年に竹資源に関する州政府の政策が始まって以降、竹林開発省が設立され、竹林の保護や竹資源の持続可能な利用、竹製品の流通や産業の促進が取り組まれている。

### 女性は布を織り、男性は籠を編む

ナガの農村社会では、紡績や織物、刺繍は女性の仕事、木彫や陶芸、金属工芸は男性の仕事というように分業化されてきた。植物素材を編み組みするバスケットリーは男性の仕事で、その技法や形、デザインは豊富さはインド国内でも指折りである。村にはバスケットリー専門の職人がいるわけではなく、成人男性であればかつては誰もがこなった乾季の作業のひとつで、村によっては、結婚の際

でももある。また第二の用途は運搬で、薪や収穫物を運ぶ背負い籠は村人誰もが所有し、頭に幅広の紐を引っ掛けて背負う。籠をはじめ、住居の壁材や床材、円形のスツール、雨合羽、樹皮で編んだ魚網など、さまざまな日用品に植物素材を編む技法が溢れている。

### 男性衣装や装飾品に見るバスケットリー

日用品だけではなく、祭礼などの特別な衣装や装飾品として、男性がバスケットリーを身につけるのもナガの特徴である。例えば、帽子は村によってさまざまなスタイルがあり、村ごとにおそろいの衣装、おそろいの帽子を身につける。ポチュリ・ナガの帽子は凹錐型の竹組みに、赤と黄色の配色で編んだ籐の装飾がほどこされ、赤く染色した山羊の毛がモヒカン状につけられている。またチャケサン・ナガが身につける、ピ

パとよばれる脚絆も、黄色の蘭の茎と赤や白に染めた籐を組み合わせて編まれたものである。ナガのなかでも編み方、配色、形状は多様で、民族や村独自の意匠は他との差異を明確にする要素でもあった。

現在、ナガランド州に暮らすナガの約九割がキリスト教徒（最大教派はバプテスト）である。キリスト教が広まる以



脚絆ピパをつけたチャケサン・ナガ(インド、ナガランド州、2013年)



竹を編んだ住居の壁(インド、ナガランド州、2016年)



伝統衣装、帽子を身につけたポチュリ・ナガ(インド、ナガランド州、2016年)



ノクテ・ナガの飾り籠(H0109212)

前のナガ社会には首狩の慣習が存在し、ノクテ・ナガをはじめ北部のナガには竹を編んだ飾り籠が見られた。これは狩った首の数だけ狼の頭蓋骨を籠の側面につけたもので、村の祭礼の際に男性が斜め掛けをして身につけ、自身の勇敢さを示した。今日でもナガの村々を訪れると軒先でヒゴを削り、籠を編む男性の姿がよく見られる。しかしながら、卓越した技術を有する世代は高齢化しつつあり、手仕事の継承は課題でもある。そうしたなか、新型コロナウイルス感染症の世界的流行によって、ナガランド州でも二〇二〇年三月から六月までロックダウンが続き、州外から帰省したナガの若者たちが村の仕事を手伝い、村の日常や伝統文化を紹介する動画の配信を盛んにおこなうようになった。こうした現象が、今後の伝統的な手仕事の継承にどのように影響してくるのか見守りたい。